

# 令和3年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural  
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子  
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	評価	現状・課題
保育目標に	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	園内研修等を通し保育理念や保育目標が浸透してきている。また、子ども一人一人の主体性を大切にされた保育の取り組みもできはじめている。今後も法人研修、園内研修を通し、職員へ学びの機会を設け、一人ひとりの意識改革、保育の質の向上を図りたい。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	環境構成委員が会議やミーティングなどで他園の事例や自園の課題を伝えることで、少しずつではあるが子どもの興味関心に応じた保育環境に変化しつつある。ただ、一度作った環境がずっとそのままになっており、変化の見られないクラスもあった。また、保育についても、一斉保育、職員主導の保育にならないように子どもの声や興味関心に寄り添いながら保育を進めているが継続性に欠ける場面もあった。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	B	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	B	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	B	栄養士、保育士が連携、情報を共有しながら、給食提供、食育、アレルギー児への対応が行えている。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	
役割研 割員 修構 担成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	それぞれ責任を持って仕事、役割を果たしている。 (2)について、毎月、避難訓練を行っているが、職員が緊張感にかけられる場面があったため全体指導を行った。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	B	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	

		評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	保護者の想いに寄添い対応を行っている。 コロナ禍で制限のある中での行事の開催となったが、中でも子どもたちはのびのびと自分の成長を感じながら行事に参加していた。 ドキュメンテーションやウェブマップの掲示を行い、保育の見える化に努めている。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	
	(4)園日より、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	

開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	小学校との連携会議も実施され、情報の共有、小学校との連携を図ることができた。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	保護者に対して心身の発達や育児不安について気軽に相談できる関係性は築かれている(送迎時に気軽に相談している)
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	D	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	

## 総合的な現状と課題

<p>コロナ禍で制限のある中での保育となったが、感染予防に努めながら、日々、子どもたちの想いに寄添い保育と行事を行った。子ども主体の保育を進める中で、法人研修や幹部会、各委員会からの報告を受けることで、他園の保育に目を向けるようになった。そのことで自園の現状と課題、改善すべき点が見えてきた。その現状と課題、改善すべき点を職員全員が真摯に受け止め、共有したことで、同じ方向を向き、同じ意識のもと、保育を進めていくことができた。現在も課題解決に向け、環境構成委員を中心に、他園の保育の取り組みや保育環境の事例を参考にしながら、保育の改善、保育の質の向上に努めている。今後も職員一人一人が保育理念、4本柱の本質的な意味を理解していくとともに、主体性保育に対しての学びを深め、子どもを中心に、子どもたちの成長や想い、興味関心に寄添いながら保育を進めていきたい。</p>
---

園名 ひがし保育園 氏名 川村 隆晶